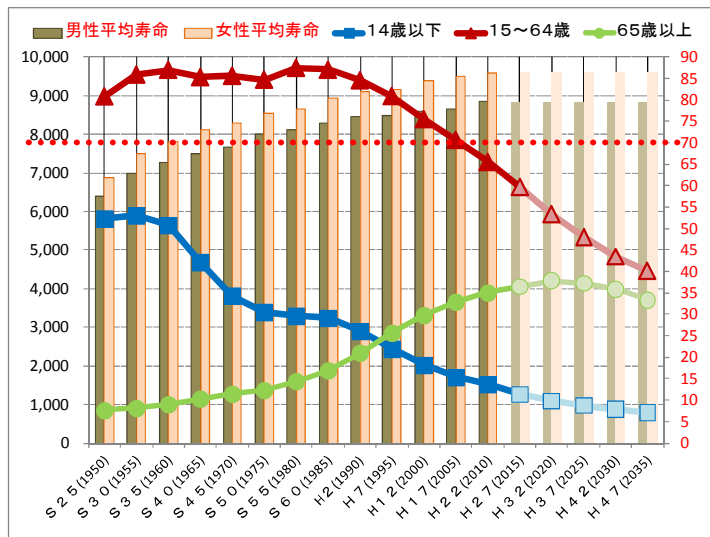


生産年齢人口（15～64歳）でグラフを作るのは怠慢で害悪だ



人口の年齢3区分は、14歳以下（従属年齢人口）、15歳～64歳（生産年齢人口）、65歳以上（高齢者）がお約束。65歳以上人口が7%を超えると高齢化しつつある社会で、14%を超えるともう高齢社会。

右図の折れ線グラフ（目盛り左／単位：人）は、熊本県のある町の年齢3区分ごとの人口推移を示したものである。こんなグラフはよく見る、というか、これ以外見ることはまずない。でも、このグラフからは、結局たいしたことは言えない。平均寿命



命（目盛り右／単位：歳）が70歳に届いていなかった1960代までは、年齢3区分で分析してもよかったかもしれない。「金の卵」と言われた中卒の人が就職していた頃だから、確かに15歳は生産年齢だ。でも、今は全然違うから、同じ町で、下表のような区分を試してみた。

表1. 年齢区分ごとの人口割合の推移

単位：人、%

年齢区分	1995(H7)	2000(H12)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(H32)	2025(H37)	2030(H42)	2035(H47)
総数	976	837	675	568	503	414	363	331	298
未成年(19歳以下)	23.7	20.7	18.3	16.6	14.8	13.7	12.8	12.4	12.1
子ども(9歳以下)	10.3	8.6	7.8	7.5	6.3	6.0	5.8	5.7	5.5
子ども(10～14歳)	6.8	6.1	5.1	4.5	4.2	3.7	3.5	3.4	3.3
子ども(15～19歳)	6.6	6.0	5.4	4.6	4.3	4.0	3.5	3.3	3.3
若者(20～34歳)	14.9	14.4	14.4	12.7	13.2	12.7	11.9	10.9	10.1
働き盛り(25～59歳)	43.6	43.5	43.2	40.2	38.7	37.8	37.2	37.5	36.0
子育て世代	31.0	29.1	26.9	25.2	25.5	25.9	24.9	24.0	23.1
前期子育て世代(30～39歳)	9.6	9.5	10.1	9.0	9.2	9.0	8.4	7.9	7.2
後期子育て世代(40～49歳)	21.4	19.6	16.9	16.3	16.3	16.9	16.5	16.1	15.9
高齢者予備軍(60～64歳)	7.5	6.8	6.4	8.7	8.5	7.3	6.9	5.9	7.6
高齢者(65歳以上)	20.0	24.1	27.7	30.7	34.0	37.5	39.6	41.1	41.4
前期高齢者(65～74歳)	11.9	14.1	14.2	13.3	15.0	17.4	16.3	15.0	13.7
後期高齢者(75以上)	8.1	10.0	13.5	17.4	18.9	20.1	23.2	26.2	27.7
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2. 働き盛り世代人口を100とした場合の各年齢区分人口の比

年齢区分	1995(H7)	2000(H12)	2005(H17)	2010(H22)	2015(H27)	2020(H32)	2025(H37)	2030(H42)	2035(H47)
未成年(19歳以下)	54.3	47.5	42.5	41.4	38.3	36.2	34.5	33.0	33.6
子ども(9歳以下)	23.6	19.8	18.1	18.7	16.3	15.9	15.7	15.1	15.3
子ども(10～14歳)	15.7	14.0	11.8	11.1	10.9	9.8	9.3	9.1	9.2
子ども(15～19歳)	15.0	13.7	12.5	11.5	11.1	10.5	9.4	8.8	9.1
若者(20～34歳)	34.2	33.2	33.4	31.7	34.1	33.6	31.9	29.1	28.1
働き盛り(25～59歳)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
子育て世代	71.2	67.0	62.4	62.7	65.7	68.5	66.9	64.0	64.1
前期子育て世代(30～39歳)	22.0	21.9	23.4	22.3	23.7	23.9	22.6	20.9	20.1
後期子育て世代(40～49歳)	49.2	45.1	39.0	40.5	42.0	44.6	44.3	43.1	44.0
高齢者予備軍(60～64歳)	17.2	15.6	14.9	21.6	21.8	19.3	18.7	15.9	21.1
高齢者(65歳以上)	45.9	55.5	64.1	76.3	87.7	99.1	106.5	109.6	114.8
前期高齢者(65～74歳)	27.3	32.5	32.8	33.0	38.8	45.9	44.0	39.9	37.9
後期高齢者(75以上)	18.6	23.0	31.3	43.3	48.9	53.2	62.5	69.8	76.9
支援人口(未成年+後期高齢者)	72.9	70.6	73.7	84.6	87.1	89.4	97.0	102.8	110.5

表1に基づいて年齢区分ごとの人口推移のグラフを作ると、下図の通りとなる。

この町では、2005年頃には、すでに後期高齢者が前期高齢者数を越え、あと7、8年もすれば、高齢者数が働き盛りの人口を超えてしまう。前頁の折れ線グラフだと、高齢者数と生産年齢人口が同じになるのは2035年より先のことだ。後期高齢者や未成年者は生産にかかわらないと見ると（支援人口＝造語）、働き盛り世代がこれを支えることになる。表2に示したとおり、2015年には働き盛り100に対して支援人口は87.1となる。この町をどうしよう…。

